

# 埼玉大学紀要

(教 養 学 部)

第55巻 (第2号)

2020

## (目 次)

日本における世界史教育の歴史 (Ⅱ-4) —三分科制の時代 4. —	岡崎 勝 世	( 1)
現代日本語における動詞の結合関係 —動詞語義記述の手段として—	岡田 幸 彦	( 19)
壁塗り代換における位置変化用法と状態変化用法の関係について —多義との違いは何か—	川野 靖 子	( 37)
新興国は多国間主義にいかに向かうのか —新興国と新興多国間援助—	近藤 久 洋	( 51)
社会的影響の意見間距離モデル	高木 英 至	( 73)
ニュートンのプリンキピアの一定理に関する覚書	都築 正 信	( 95)
経済収斂化に対する順応メカニズムの検証 —日本の繊維産業を例に—	富田 晃 正	(101)
「キキビソ」考	中澤 光 平	(115)
漢代における遼東郡と交易	中村 大 介	(129)
<i>Taiping Yulan</i> “Calligraphy”: An Annotated Translation (3)	成田 健太郎	(149)
トランプ米政権一期のマーケティングコミュニケーション —研究ノート—	平林 紀 子	(177)
自由意志と行為者性	星野 徹	(211)
Vegetable Production among Suburban Dwellers in Ulaanbaatar スレンバートル・ルヴサンジャムツ	三浦 敦	(227)
大学生のアイドルファンにおける音楽受容の調査	山崎 敬 一 古川 光 流 袁 景 竜 陳 怡 禎	(237)
近世民衆教化にみる明清道德律の土着化 —『六諭衍義大意』の「翻訳」と活用について—	殷 曉 星	(293)
納蘭性徳の詞について	塚本 嘉 壽	(275)
石川淳「山桜」をめぐって —ネルヴァルから秋成へ、あるいはロマン主義の克服—	杉浦 晋	(259)

埼玉大学教養学部

## 埼玉大学紀要(教養学部)投稿規程

(名称及び発行)

第1条 埼玉大学紀要(教養学部)と称し、英語名を Saitama University Review (Faculty of Liberal Arts) とする。

2 埼玉大学紀要(教養学部)(以下「紀要」という。)は、埼玉大学大学院人文社会科学研究科(学際系)教員(以下「本学部教員」という。)等の学術研究成果を発表することを目的とし、原則として年2回発行し、2号分をもって1巻とする。

(投稿資格)

第2条 紀要へ投稿できる者は、原則として本学部専任教員および本学部の非常勤講師とする。但し、教養学部紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)および教養学部学部長室(以下「学部長室」という。)が必要と認めた場合は、本学部教員以外の者にも投稿を許可することができる。

2 共著の場合は、本学部専任教員が主たる研究者となり執筆したものに限る。

(論文等の掲載の可否)

第3条 掲載の可否は、編集委員会が決定する。

(不正行為の防止)

第4条 本誌に投稿する論文等は、いずれも他に未発表のものに限る。他の学術誌等に投稿済のものの投稿は二重投稿とみなし、本誌での掲載を認めない。

2 投稿論文の研究あるいは執筆において重要な貢献をなしていない者が著者となることはできない。また、不適切なオーサーシップの疑義があると学部長室が認めた投稿論文等は、本誌への掲載を認めない。

(掲載順序)

第5条 掲載順序は、原則として、横書き、縦書きそれぞれの投稿者氏名の50音順とする。

(経費)

第6条 紀要発行に要する経費は、原則として学部負担とする。

2 カラー印刷など特殊な印刷を要する場合、その印刷経費は原則として投稿者負担(運営費)とする。

3 別刷りの経費は原則として投稿者負担(運営費)とする。

(著作権等)

第7条 本文の一部や図・表・写真等を他の著作物から転載したり、オリジナルを掲載する場合、著作権に関わる問題や法令上の手続きは、投稿者があらかじめ処理するものとする。それらについて問題が生じた場合は、その責は投稿者が負うものとする。

2 投稿者は、埼玉大学に対して、当該論文等の印刷、電子的記録媒体(USBメモリ等)への変換・複製、学内外への配布を原則として許諾するものとする。

3 投稿者は、埼玉大学及びこれが委託する機関等に対して、当該論文等の送信可能化・コンピュータネットワーク等での学内外への公開を原則として許諾するものとする。

埼玉大学紀要（教養学部） 第55巻（第2号）

2020年 3月31日 印刷  
2020年 3月31日 発行

編集兼 埼玉大学教養学部  
発行人 さいたま市桜区下大久保255番地

印刷所 有限会社 大谷製版  
埼玉県さいたま市見沼区深作3-33-12

# Saitama University Review

(Faculty of Liberal Arts)

Vol. 55 (No. 2)

2020

---

## Contents

History of World History as a Subject of School Education(II- 4): On an Age when World History was divided into Oriental History and Occidental History 4. ..... OKAZAKI Katsuyo .....	( 1)
Verbal connection in modern Japanese —As a metalanguage for lexical meaning of verbs— .....	OKADA Yukihiro ( 19)
On the relationship between change-of-location and change-of-state meanings of locative alternation verbs: ..... KAWANO Yasuko .....	( 37)
How alternating verbs are different from polysemous verbs	
How Do Emerging Countries Approach Multilateralism? .....	KONDOH Hisahiro ( 51)
Emerging Countries and New Multilateral Aid	
The Opinion Distance Model of Social Impact .....	TAKAGI Eiji ( 73)
A Note on a Theorem in <i>Newton's PRINCIPIA</i> .....	TSUZUKI Masanobu ( 95)
Verification of Adaptation Mechanism for Economic Convergence: .....	TOMITA Terumasa (101)
Case of Japanese Textile Industry	
A consideration over “kikibiso” .....	NAKAZAWA Kohei (115)
Liaodong commandery and trade in Han dynasty period .....	NAKAMURA Daisuke (129)
<i>Taiping Yulan</i> “Calligraphy”: An Annotated Translation (3) .....	NARITA Kentarō (149)
Marketing Communications in the First-Term Presidency of Donald Trump: —Research note .....	Noriko HIRABAYASHI (177)
Free Will and Agency .....	Toru HOSHINO (211)
Vegetable Production among Suburban Dwellers in Ulaanbaatar .....	Atsushi MIURA SURENBAATAR Luvsanjamts (227)
A survey of university students’ music experience as idol fans .....	Keiichi YAMAZAKI Hikaru FURUKAWA (237) Jinglong YUAN IChen CHEN
Acceptation of Ming/Qing Moral Codes in Edo Period: Focus on the “Translation” and Utilization of <i>Rikuyuengi-tai</i> .....	YIN Xiaoxing (293)
On Na Lan Xing Da’s Ci Poetry .....	TSUKAMOTO Yoshihisa (275)
On Ishikawa Jun’s “Yamazakura”: from Gérard de Nerval to Ueda Akinari, or Overcoming Romanticism .....	SUGIURA Susumu (259)

---

Faculty of Liberal Arts

Saitama University